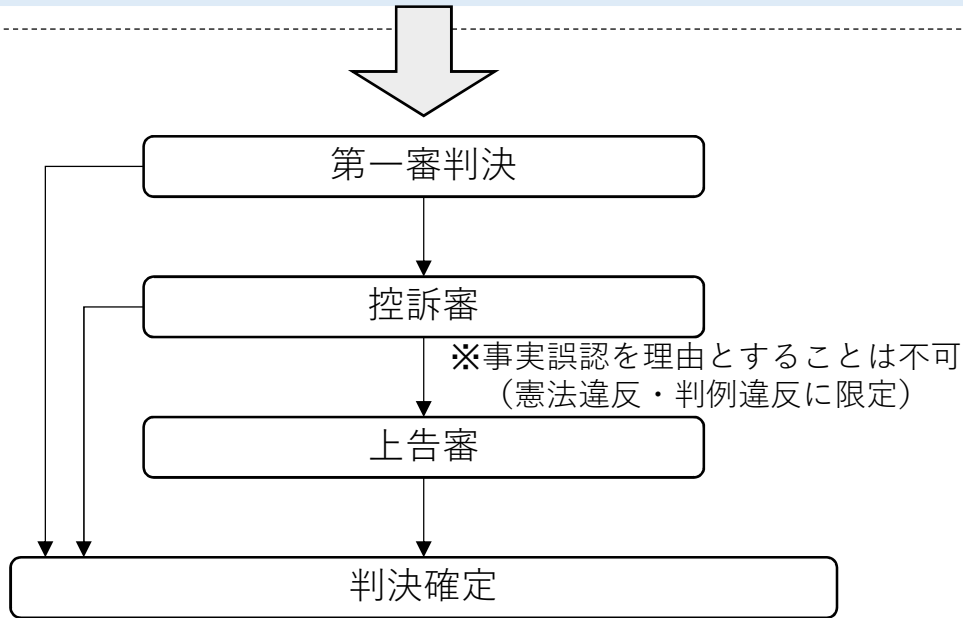
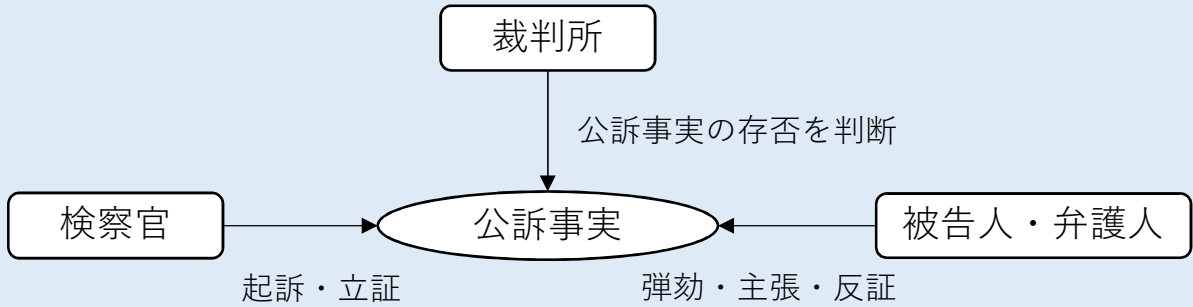


通常審（三審制）及び再審請求審の 手続構造

通常審（三審制）及び再審請求審の手続構造

通常審

- 検察官が起訴した公訴事実を立証する証拠を提出し、被告人・弁護人はその信用性を争い、あるいは反証するなどして防御し、裁判所は、双方の主張・立証を考慮して、公訴事実の存否（合理的疑いを容れないか）を判断する（当事者主義）。



再審請求審

- 再審請求審では、有罪判決を受けた者等が再審開始事由（「無罪・・・を言い渡（す）べき明らかな証拠をあらたに発見したとき」等）があることを理由として再審の開始を請求し、裁判所が、職権で、当該事由の存否を判断するため必要な審理を行う（職権主義）。

